

東北地方 1 か月予報

(10月28日から11月27日までの天候見通し)

平成18年10月27日
仙台管区气象台発表

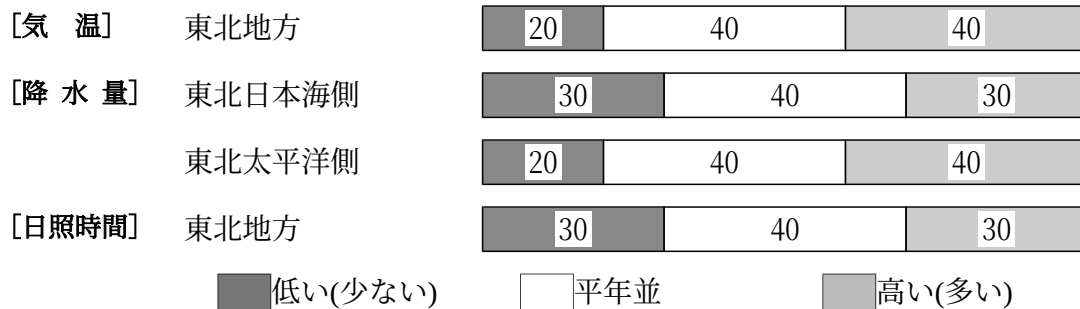
<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

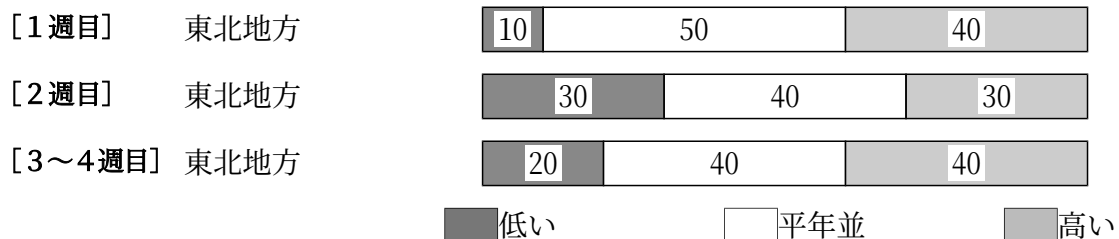
低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変化するでしょう。東北日本海側は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。東北太平洋側では平年に比べて曇りや雨の日が多いでしょう。平均気温は東北地方で平年並または高い確率がともに40%です。降水量は東北太平洋側で平年並または多い確率がともに40%です。

週別の気温は、東北地方で、1週目は平年並の確率が50%、3～4週目は平年並または高い確率がともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

1か月 : 10月28日(土)～11月27日(月)
1週目 : 10月28日(土)～11月 3日(金)
2週目 : 11月 4日(土)～11月10日(金)
3～4週目 : 11月11日(土)～11月24日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は11月3日
3か月予報：11月22日(水) 14時

＜参考資料（平年並の範囲等）＞

（１）30 年平均値（向こう 1 か月の平均気温、降水量、日照時間と 1 週目、2 週目、3 ～ 4 週目の平均気温）

	気 温 (°C)	降 水 量 (mm)	日照時間 (時間)	気 温(°C)		
				1 週目	2 週目	3 ～ 4 週目
青森	7.2	134.7	101.6	9.6	8.3	6.0
深浦	8.2	153.3	80.1	10.6	9.3	7.1
むつ	7.0	118.9	116.9	9.4	8.0	5.9
八戸	7.4	69.0	145.1	9.8	8.4	6.2
秋田	8.3	188.3	95.0	10.6	9.4	7.2
盛岡	6.4	98.4	126.1	8.7	7.4	5.3
大船渡	8.9	109.8	145.6	11.0	9.9	7.9
宮古	8.4	88.1	153.4	10.4	9.4	7.4
仙台	9.8	71.5	148.5	12.0	10.8	8.8
石巻	9.0	71.6	156.1	11.3	10.1	7.9
山形	7.9	80.5	107.8	10.1	8.9	6.8
新庄	6.9	197.3	70.3	9.2	7.9	5.9
酒田	9.6	224.8	91.1	11.8	10.6	8.6
福島	9.6	66.6	136.9	11.9	10.6	8.6
若松	7.7	76.2	96.3	9.9	8.8	6.6
白河	8.3	67.5	152.4	10.4	9.4	7.2
小名浜	11.4	93.9	166.0	13.5	12.4	10.4

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

（２）1971 ～ 2000 年のデータに基づいた向こう 1 か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差（比）の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差(°C)	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.4 ～ +0.6	81 ～ 110	96 ～ 104
東北日本海側	-0.3 ～ +0.5	92 ～ 107	94 ～ 105
東北太平洋側	-0.4 ～ +0.6	69 ～ 114	96 ～ 104

（３）この予報期間の 1 週目、2 週目、3 ～ 4 週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1 週目	2 週目	3 ～ 4 週目
東北地方	-0.7 ～ +0.7	-0.6 ～ +0.6	-0.5 ～ +0.5
東北日本海側	-0.7 ～ +0.8	-0.6 ～ +0.7	-0.5 ～ +0.4
東北太平洋側	-0.7 ～ +0.8	-0.6 ～ +0.6	-0.5 ～ +0.6

＜参考資料（利用上の注意）＞

（１）気温（降水量）等は、「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の 3 つの階級で予報します。階級の幅は、1971 ～ 2000 年の 30 年間における各階級の出現率が等分（それぞれ 33％）となるように決めてあります（気候的出現率と呼びます）。

（２）予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった 10％以下や 60％以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度（30％、40％）の確率しか付けられません。

（３）晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い（少ない）場合は「平年に比べて多い（少ない）」、また平年の日数と同程度に多い（少ない）場合には「平年と同様に多い（少ない）」と表現します。なお、単に多い（少ない）と表現した場合には対象期間の 2 分の 1 より多い（少ない）ことを意味します。

東北地方 1 か月予報解説資料

平成 18 年 10 月 27 日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう 1 か月（10 月 28 日～11 月 27 日）：

低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変化するでしょう。東北日本海側は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。東北太平洋側では平年に比べて曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並または高い確率がともに 40%です。

1 週目（10 月 28 日～11 月 3 日）：

東北北部は、気圧の谷や寒気の影響で曇りの日が多く、期間のはじめと中頃は雨の降る所があるでしょう。東北南部は、高気圧に覆われて概ね晴れますが、期間の中頃は気圧の谷の影響で雨の降る所がある見込みです。

平均気温は平年並の確率が 50%です。

2 週目（11 月 4 日～11 月 10 日）：

低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変化するでしょう。東北日本海側は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。東北太平洋側は平年に比べて曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は各階級の確率の偏りは小さい。

3～4 週目（11 月 11 日～11 月 24 日）：

低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変化するでしょう。東北日本海側では平年に比べて晴れの日が多いでしょう。東北太平洋側では平年に比べて曇りや雨の日が多いでしょう。

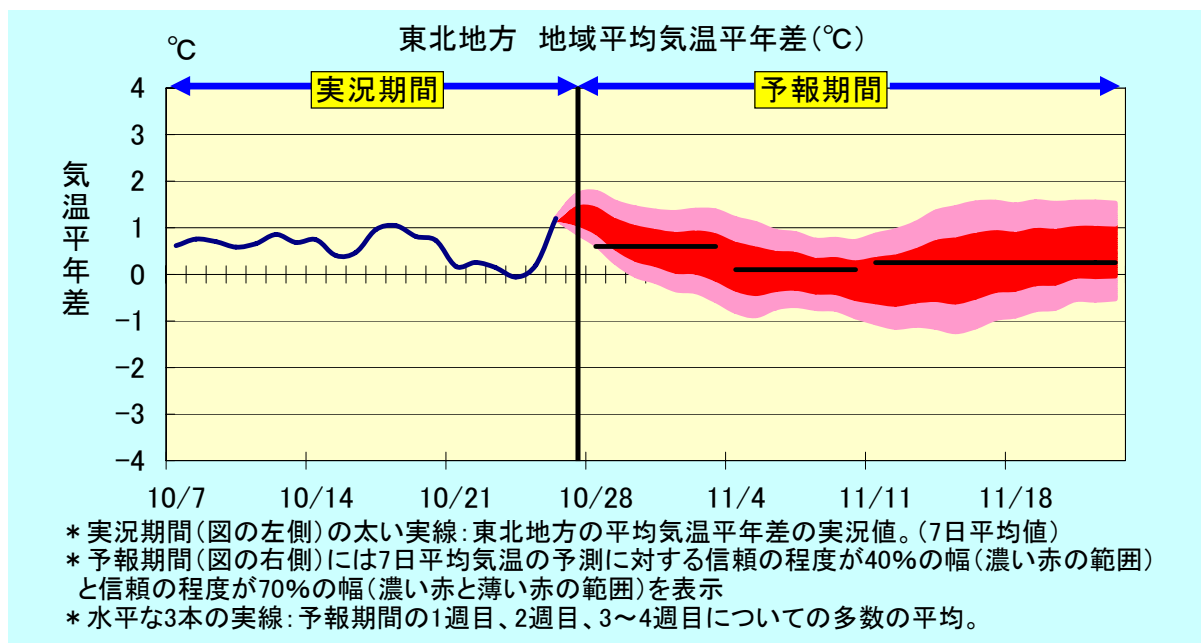
平均気温は平年並または高い確率がともに 40%です。

平年の晴れ日数

	向こう 28 日間	1 週目	2 週目	3～4 週目
東北日本海側	9.4 日	2.8 日	2.8 日	3.8 日
東北太平洋側	16.5 日	4.1 日	4.3 日	8.1 日

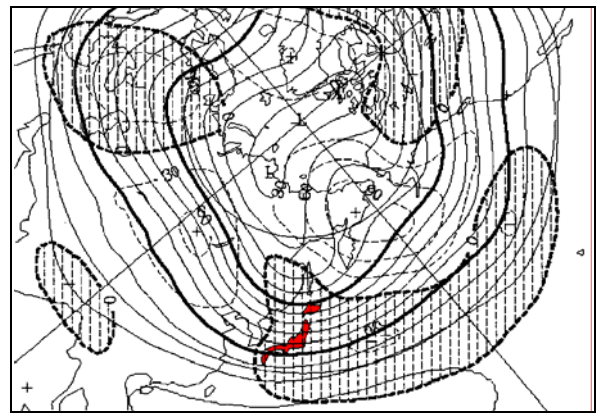
2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別のアンサンブル平均気温は、1 週目、2 週目、3～4 週目ともに平年並付近を予測しています。予報はその他の資料から、3～4 週目の低い可能性を小さくし、高い可能性を大きくします。なお、数値予報の信頼度は小さい。



3. 1か月平均と1, 2週目の上空の大気の流れの予想 (500 hPa 予想天気図)

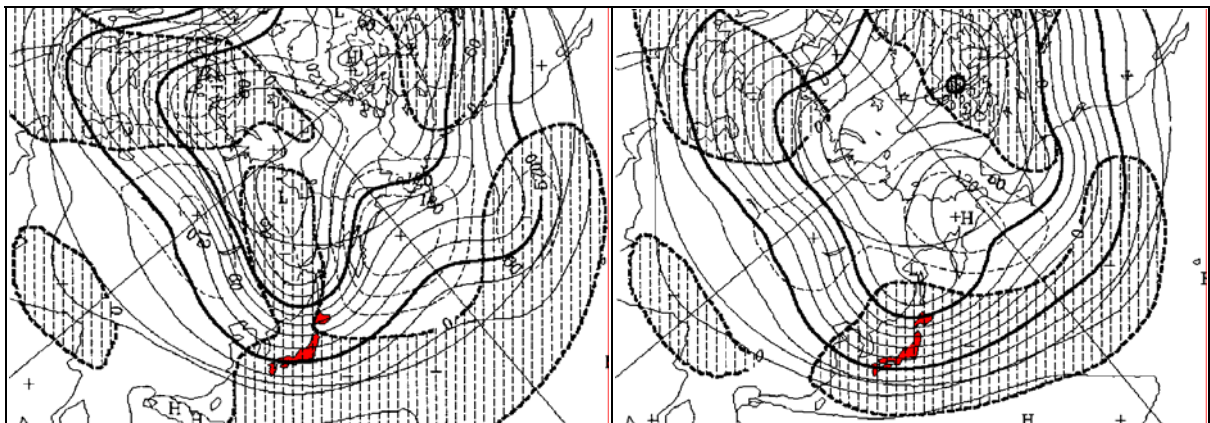
1か月平均: 日本付近はアムール川下流域から太平洋にかけて広がる負偏差域に覆われている。一方、大陸はモンゴル付近とカムチャツカの北に中心を持つ正偏差域となり、日本付近は一時寒気が南下することがあるが、下層の予想 (図略) では正偏差が続くため、気温は平年並から高い傾向が予想される。日本付近の偏西風の流れは南北の蛇行が小さく、低気圧と高気圧が交互に通過し天気は周期的に変化するが、低気圧の影響が大きい見込み。



1か月平均 500hPa 予想天気図
(図の見方は1, 2週目と同じ
ただし平年差の間隔は 30m 毎)

1週目: 日本付近はシベリアから本州付近を通して南に続く負偏差。この負偏差は本州以南の太平洋に広がるが、バイカル湖の西とカムチャツカの東に中心を持つ正偏差域にはさまれる。寒気の南下は予想されるが続かない見込み。天気は周期的に変化するが曇りや雨の日が多い見込み。

2週目: 日本付近は大陸の極東域から東へ広がる負偏差域となる。大陸の大部分は正偏差で、モンゴルからカムチャツカの北部付近の正偏差が大きい。天気は周期的に変化するが、低気圧の影響が大きい見込み。



1週目平均 500 hPa 予想天気図

2週目平均 500 hPa 予想天気図

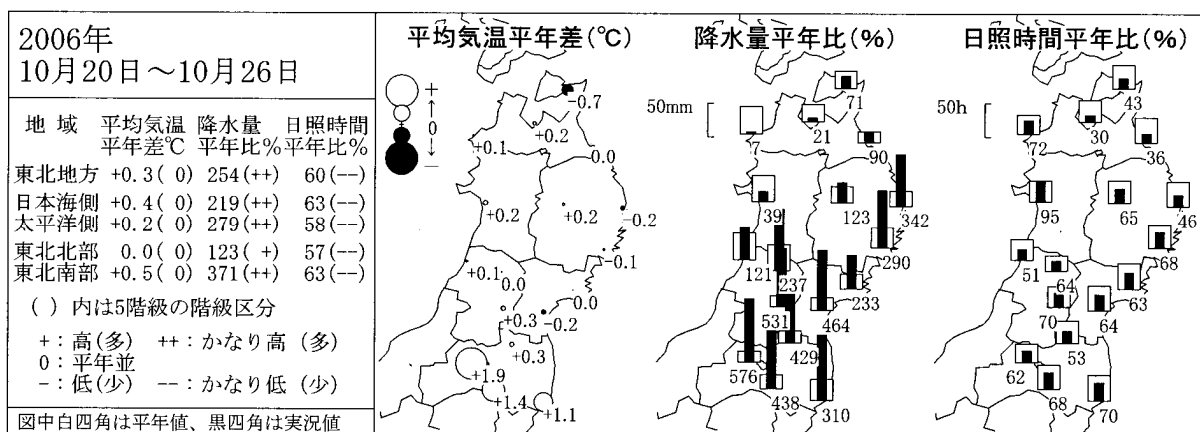
実線は、等高線 (間隔 60m)、点線は、平年差 (間隔 60m)

陰影部は、負偏差で一般に寒気に対応する 白抜きは、正偏差で一般に暖気に対応する

4. 最近1週間 (10月20日～10月26日) の天候の経過

この期間、前線や気圧の谷、低気圧の影響で曇りや雨の日が多かった。23～24日にかけては、日本海を東進した低気圧と日本の南海上の低気圧の影響で、東北南部と東北太平洋側北部を中心に大雨となった所があった。

平均気温は東北地方で平年並。降水量は東北部で多く、東北南部でかなり多い。日照時間は東北地方でかなり少ない。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差 (比)